

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都東寺駅前開発プロジェクト	階数	地上8F、地下1F
建設地	京都市南区西九条島町54番1の一部、54番2、54番3の一部	構造	S造
用途地域	商業地域、第二種住居地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	XX人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	飲食店、ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 0.0	評価の実施日	2019年9月17日
敷地面積	984.24 m ²	作成者	小林敬政
建築面積	763.31 m ²	確認日	2019年9月18日
延床面積	5,944.70 m ²	確認者	今津健児



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	79%
④上記+	79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.1**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	3.4
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	2.8
耐用性	3.0
対応性	2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.3

生物環境	1.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	3.8
自然エネ	3.0
設備システ	3.8
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.8
地域環境	2.6
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項	
総合	ホテル用途という目的を満足した設備計画とし、利用者が快適に過ごせる環境水準となるよう配慮する。過度なスペースとしないことで、エネルギー利用及び周辺環境にやさしい建築物として計画する。
その他	
Q1 室内環境	遮音性能の確保、空調換気設備の設置。化学汚染物質を発生しない材料を使用。客室窓には複層ガラスを使用。
Q2 サービス性能	ロビー部分は石材や左官等をあしらい、落ち着いたある快適性に配慮した内装計画とする。また、ロビーの真中に坪庭を配し、空間の広がりや視認性の確保に寄与するとともに京都という場所性を意識し
Q3 室外環境(敷地内)	近隣の東寺や周辺環境に配慮した外観計画とする。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.91
LR2 資源・マテリアル	主要な水栓には節水コマを採用。節水型便器の採用。
LR3 敷地外環境	管理用駐車スペースの確保。公共交通利用促進計画書の提出により、周辺の渋滞等緩和に寄与。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される